臨床研究　計画書

申請日：２０２５年1月２０日

<table>
<tr><td>研究代表者氏名</td><td colspan="2">田中智裕</td></tr>
<tr><td rowspan="2">共同研究者氏名</td><td colspan="2">浅ノ川総合病院　薬剤部　笹山潔</td></tr>
<tr><td colspan="2">北陸大学 薬学部教授 石川和宏、学生（5年）浅地侑衣</td></tr>
<tr><td>研究課題名</td><td colspan="2">回復期リハビリテーション病棟におけるポリファーマシーと転倒に関する調査</td></tr>
<tr><td>研究目的・概要</td><td colspan="2">転倒により骨折、脱臼、捻挫等が生じると、患者のQOLが低下する。場合によっては寝たきり、要介護に繋がるため、転倒対策は医療安全、介護、医療経済等の様々な観点から見ても重要な課題であると言える。
当院は 50 床の回復期リハビリテーション病棟を有しており、当該病棟では積極的にリハビリが行われているが、身体機能、筋力、精神状態等の要因が常に変化するため、転倒リスクとは常に隣り合わせである
転倒は様々な要因が組み合わさることで発生するが、催眠鎮静剤等の薬剤の使用やポリファーマシーも要因と言われている。特にポリファーマシーの患者では転倒が有意に増加したと報告もされている。
本研究では、回復期リハビリテーション病棟に入院した患者を対象としポリファーマシーと転倒の関連性について後方視的に調査を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">PECO</td><td>Patients</td><td>浅ノ川総合病院回復期リハビリテーション病棟の患者（2023.4.1～2024.3.31）</td></tr>
<tr><td>Exposure</td><td>薬剤数が6種類以上の患者</td></tr>
<tr><td>Comparison</td><td>薬剤数が6種類未満の患者</td></tr>
<tr><td>Outcome</td><td>転倒率が高い</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td colspan="2">【研究実施期間】承認後～2026年3月31日
【研究対象者】浅ノ川総合病院回復期リハビリテーション病棟に入院した患者（2023.4.1～2024.3.31）
※死亡退院、他病棟へ転棟となった患者は除外
【調査方法】
研究対象の患者について、電子カルテより必要な情報を調査・収集し、匿名化を行ったうえでMicrosoft　Excelファ</td></tr>
</table>

	イルに記入する。ただし、個人の特定が可能となる情報はファイルに記入しない。 【調査項目】 年齢、性別、診療科、入院及び退院時の薬剤数、入院中の転倒・転落の有無、転倒・転落時の薬剤数及び種類（催眠鎮静剤、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、非麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、降圧薬、利尿薬等） ※薬剤数：内服薬の数（頓服薬や外用薬は対象外） 【調査資料の管理】 研究責任者は研究終了後、Microsoft Excel ファイルをパスワード付き USB フラッシュメモリへ保存して施錠できる場所に保管する。研究終了後は全てのデータを廃棄する。 【有害事象等】 本研究はカルテ調査を基にした研究であり、患者に対する有害事象や健康被害は想定されない。